

# 春山秋山

楠山正雄

青空文庫



むかし、但馬国におまつられになっている出石の大神のお  
 女に、出石少女という大そう美しい女神がお生まれになりました。  
 この少女をいろいろな神様が  
 お嫁にもらおうと思つて争いまし  
 た。けれども少女はお嫁に行くことをいやがつて、だれのいうこ  
 とも聴きこうとはなさいませんでした。

この神さまたちの中に、秋山の下氷男と春山の霞男  
 という兄きょうだい弟かみの神さまがありました。ある日兄あにの秋山の下  
 氷男は、弟おとこの霞男おとこに向かつて、

「わたしはあの少女をお嫁にもらいたいと思つていろいろに骨を折つてみたが、どうしてもいうことを聴いてくれない。どうだ、お前ならもらえらと思うか。」

と聞きました。

「わたしなら、わけなくもらつてみせますよ。」

と弟の神が、笑いながらいいました。

「ふん、そんならお前とわたしと、どちらが早く少女をもらうか競争をしよう。もしわたしが負ければ、この着物きものをぬいでお前に上げよう、そしてわたしの背の高さだけの大きなかめに酒をなみなみ盛つて、海山のごちそうを一通りそろえて、お客に呼んでやろう。」

とよいました。すると霞男かすみおとこはいよいよおもしろがつて、

「ようございますとも。そのかわり万まんいち一いちわたしが負けたら、に

いさんの代わりかに、わたしがごちそうをしましょう。」

こう約束やくそくをして別わかれました。

弟おとうとかみの神はそれからうちへ帰かえつて、兄神あにがみと賭かけをしたことをおか

あさんに話はなしますと、おかあさんは、

「よしよし、わたしがその賭かけに勝かたせて上げよう。」

とおっしゃいました。

おかあさんはそれから、一ひとばん晩ばんのうちにたくさんふじの藤ふじのつるで、

着物きものと袴はかまと、靴くつから靴くつ下したまで織おつて、編あんで、縫ぬつて、その上

にやはり藤ふじのつるで、弓ゆみと矢やをこしらえて下くださいました。

おとうとかみたい よろこ  
弟の神は大そう喜んで、おかあさんのこしらえて下さった藤づ  
るの着物きものや靴くつを体からだにつけて、藤ふじづるの弓矢ゆみやを手てに持もちました。そ  
して、うきうきうかれながら、野のを越こえ山をを越こえて、少女おとめの家いえへ  
急いそいで行きましました。

いよいよ女神めがみの家いえの前まえまで来きますと、着物きものから靴くつから弓矢ゆみやまで、  
残のこらず一度どにぱつと紫むらさきいろの藤ふじの花はなが咲さき出だして、それは絵えに  
かいたような美うつくしい姿すがたになりました。それから弟おとうとかみの神は、藤ふじの花はな  
の咲さいた弓矢ゆみやを少女おとめの居間いまの戸との前まえにたてかけておきますと、少お  
女とめが出でがけにそれを見みつけて、ふしぎに思おもいながら、きれいなも  
のですから、つい手に持もって出でようと思いました。そのとき弟おとうとかみの神は  
はすかさずそのあとについて行いって、

「あなた、どうぞわたしのお嫁よめになって下さいくだ。」

といいました。少女おとめはびっくりして、ふと自分じぶんに物ものをいいかけたものの方ほうをふり向きむますと、そこに目めもくらむように美うつくしい花はなに飾かぎられた若い男神わか おがみが、気高けだかい姿すがたをして立たっていました。少女おとめはすぐ男神おがみのお嫁よめになりました。やがて二人ふたりの間あいだには子供こどもが一人ひとり生まれました。

## 二

その後弟のちのちの神うとは兄あにの神かみに向むかって、

「いつぞや約束やくそくしたとおり、わたしは少女おとめをお嫁よめにもらつて、

子ども  
子供まで出来ました。だから約束のとおり、あなたの着物をぬ  
いで下さい。それからごちそうをたんとして下さい。」

といいました。

けれども兄神は弟神の幸福をねたましく思つて、さも  
いまいまして、

「そんな約束はした覚えがないよ。」

といつて、まるで着物もくれないし、ごちそうもしませんでし  
た。

おとうとがみ

弟神はくやしがつて、おかあさんの女神の所へ行つていい

めがみ

つけました。すると女神はおおこりになつて、兄神に、

かみ

「あなたはなぜうそをつくののです。神のくせにいやしい人間の

するようなうそをつくというのは何事なにごとです。「

としかりました。」

それでも兄あにがみ神はやはり約やくそく束を果はたそうとしませんでした。  
 すると女神めがみは出いずしがわ石川の中の島しまに生はえていた青竹あおだけを切きつて来きて、  
 目の荒あらいかごをこしらえました。そしてその中へ、川の石しおに塩しおを  
 ふりかけて、それを竹たけの葉はに包つつんだものを入れて、

「この兄あにがみ神かみのようなうそつきは、この竹たけの葉はが青あおくなって、や  
 がてしおれるように、青あおくなって、しおれてしまえ。この塩しおが干ひ  
 からびるように干ひからびてしまえ。そしてこの石いしが沈しずむように沈しず  
 んでしまえ。」

とのろって、そのかごをかまどの上うへにのせておきました。

すると兄あにがみ神はそのたたりで、それから八年ねんあいだの間干からびて、しおれて、病やみ疲つかれて、さんざん苦くるしい目にあいました。それですつかり弱よわりきつて、泣なき泣なきおかあさんの女神めがみにおわびをしました。

そこでやつと女神めがみがのろいをといっておやりになりますと、兄あにが神はまたもとのとおりの丈夫じょうぶな体からだにかえりました。

# 青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：佳代子

2004年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたっては、ボランティアの皆さんです。

# 春山秋山

楠山正雄

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>